

横 断 歩 道 橋 定 期 点 検 調 書

施 設 番 号 0

横断歩道橋名

路 線 名

所 在 地

横断歩道橋定期点検調書その 1 諸元, 総合点検結果

橋梁番号		フリガナ			架設年（西暦）	橋長 — 径間数 — 桁種		事務所名		点検者		点検日			
		名称			1900		4 鋼製桁	所在地		路線名					
交差区分 名称			上部工型式					調書区分数		積雪寒冷地		備考(補修履歴等)	詳細調査履歴		
橋梁幅員					下部工形式	A1橋台			床版支間		凍結防止剤散布				
自動車交通量		台/日				A2橋台			支承材		海岸からの距離				
うち大型車交通量		台/日				橋脚			伸縮装置		鋼橋塗装系				
緊急輸送道路		次			基礎形式					高欄種別		橋面防水処理			
									点検方法						
定期点検調書その1-1 諸元・点検結果のまとめ	劣化・損傷部位		要素番号		損傷度	劣化・損傷内容			損傷写真番号	性能の推定に用いる指標	想定する状況の性能の推定				
											活荷重	地震	その他		
	上部構造	床版													
		主桁 (鋼製)													
			横桁・縦桁等												
	下部構造	橋台	A1												
		橋脚 ()	A2												
			P1												
			P2												
			P3												
		基礎	P4												
	橋台・橋脚とも														
	上下部接続部	支承本体（アンカーボルト）													
	階段部	上部構造	床版 主桁・横桁												
		下部構造	橋台												
			橋脚												
			基礎												
	上下部接続部		支承												
	その他接続部	上部構造と階段部の接続部													
その他構造 (フェールセーフ)	落橋防止装置（鋼製部）														
	変位制限装置等														
路上部	舗装														
	排水桝・排水管														
	手すり														
	附属物（照明・標識）														
	その他														
											性能の推定（橋全体として）				
											健全性の診断区分 （主たる変状要因）				

橋梁番号・名称		架設年(西暦) 橋長 径間数 桁種		事務所名		：		■点検日		
0				所在地						
定期点検調査その1-2 総合点検結果	構成部材		部材群毎の性能の推定に用いる指標を決定した技術的評価		参考写真	損傷の種類・位置・状態	推定される変状要因	進行の可能性及び構造安全性の推定	道路利用者への影響・第三者被害の可能性	措置の必要性・緊急性
	上部構造	床版								
		主 桁								
		横桁・縦桁等								
	下部構造	橋 台								
		橋 脚								
		基 礎								
	上下部接続部	支承本体								
	階段部	上部構造								
		下部構造								
		上下部接続部								
	その他接続部	上部構造と階段部の接続部								
	その他構造	落橋防止装置 変位制限装置等								
路上部										
所見										

橋梁番号・名称		架設年(西暦) 橋長 径間数 桁種			事務所名	:	■点検日		
0					所在地				
定期点検調書その2	橋梁一般図 (位置図, 平面図, 側面図, 断面図等)								1
	※径間が複数ある場合は径間番号をつけること ※既存の図面等がない場合は概略図でよい								
橋梁一般図	橋梁位置図添付								
#1/2									

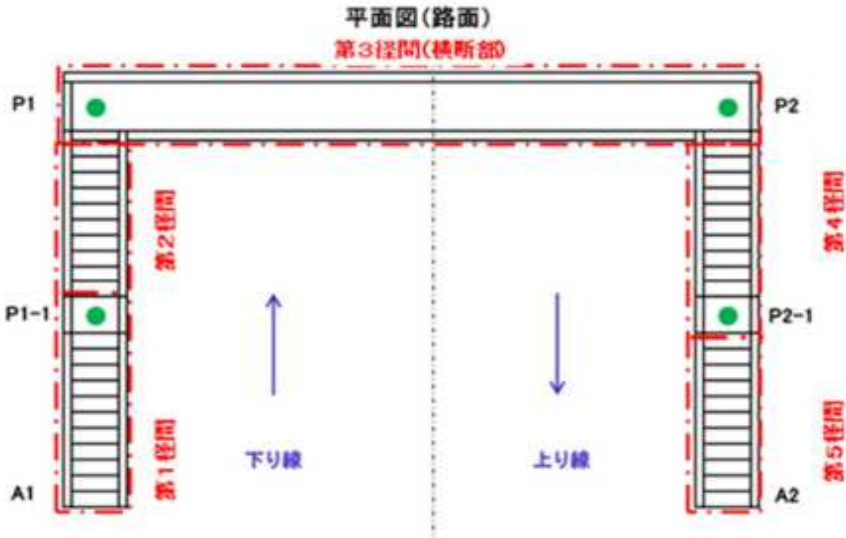
橋梁番号・名称		架設年(西暦) 橋長 径間数 桁種			事務所名	:	■点検日		
0					所在地				
定期点検調書その2	橋梁一般図 (位置図, 平面図, 側面図, 断面図等)								2
	※径間が複数ある場合は径間番号をつけること ※既存の図面等がない場合は概略図でよい								
橋梁一般図	平面図 断面図								
#2/2	側面図								

橋梁番号・名称		架設年(西暦)	橋長	径間数	桁種	事務所名	:	■点検日		
0					鋼製桁	所在地		路線名		

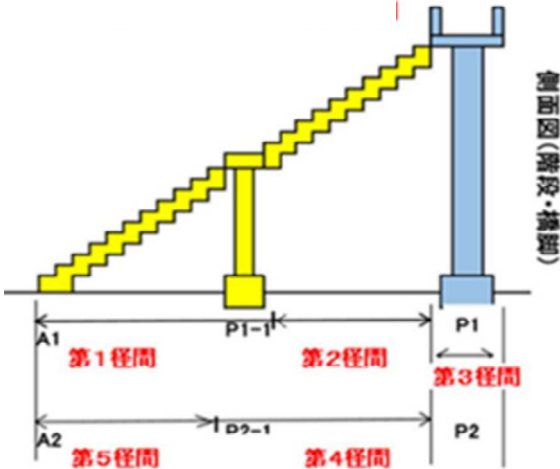
定期点検調書その3 点検模式図

1/1

平面図



側面図



※歩道橋点検要領 (R6.9 国土交通省 道路局国道・技術課)
要素番号例により番号付けする

橋梁番号・名称		架設年(西暦) 橋長 径間数 桁種		事務所名	:	■点検日		
0				所在地				
定期点検調書その4 現地状況写真 #1/2	起点側→ 終点側			1	終点側→ 起点側			2
	階段部 1			3	階段部 2			4

橋梁番号・名称		架設年(西暦) 橋長 径間数 桁種		事務所名	:	■点検日		
0				所在地				
定期点検調書その4 現地状況写真 # 2/2	下部工(上り車線側)			5	下部工(下り車線側)			6
	床版(下側から)			7	支承等			8

橋梁番号・名称		架設年(西暦) 橋長 径間数 桁種		事務所名	:	■点検日	
0				所在地			
定期点検調書その5 損傷図・変状位置図 #1/1		変状位置図					

橋梁番号・名称		架設年(西暦) 橋長 径間数 桁種		事務所名	: ■点検日	
0				所在地		
定期点検調書その6 劣化・損傷状況写真 # 1/1	写番 1:	水分供給の有無		写番 2:	水分供給の有無	
	変状状況:	損傷進行性の有無		変状状況:	損傷進行性の有無	
	損傷度:	損傷度判定理由:		損傷度:	損傷度判定理由:	
	※写番の後は部材名＋要素 (番号, 細分) 等		※写番の後は部材名＋要素 (番号, 細分) 等			
	写番 3:	水分供給の有無		写番 4:	水分供給の有無	
	変状状況:	損傷進行性の有無		変状状況:	損傷進行性の有無	
	損傷度:	損傷度判定理由:		損傷度:	損傷度判定理由:	
	※写番の後は部材名＋要素 (番号, 細分) 等		※写番の後は部材名＋要素 (番号, 細分) 等			

橋梁番号・名称		■ 架設年(西暦) 橋長 径間数 桁種				：				■ 点検日	
0		■									
定期点検調書その7 補修履歴・補修後の変状発生と時期 # 1/1	番号	補修時期(西暦)	目的・対策要因	補修部材	補修工法	補修内容・数量	表面被覆材の変状発生・時期		断面修復材の変状発生・時期		
							はくり	はらみだし	変色・劣化	変形・欠損	
	最新1		鋼橋の再塗装	主桁, 横桁等							
	最新2		舗装の更新	路面							
	最新3		伸縮装置の取替え								
	最新4		支承の取替え								
	最新5		高欄・防護柵の取替え								
	最新6										
	最新7										
	最新8										
	最新9										
	最新10										

※ 補修後の変状は、無ければ“-”，あれば日付を記入する。

橋梁番号・名称		■ 架設年(西暦) 橋長 径間数 桁種				：				■ 点検日	
0		■									
定期点検調査その8 詳細調査履歴 # 1/1	番号	調査時期 (西暦)	目的・対策要因	対象部材	詳細調査項目 (コア抜きには塩分量, Co強度および中性化を含む)				補修工法	補修内容・数量等	
					詳細ひびわれ	はつり(鉄筋腐食)	コア抜き	アル骨(残存膨張)			

※ 詳細調査資料は、“橋りょう番号”+“番号”のフォルダにまとめておく。

■ 架設年(西暦) 橋長 径間数 桁種							■点検日			
定期点検調査その7 概算数量 # 1/1	項 目	単位	概算数量	摘 要 (精 度)			適 用 部 材 ・ 工 法	単位	算出数量	摘 要 (算 定 式)
				資料	図測	推定				
	主桁本数	本					①床版上面 (床版防水, 上面増厚)	m ²	0.0	(B－0.5×2)×L
	コンクリート主桁高	m					①床版下面 (炭素繊維接着, 鋼板接着, 断面修復)	m ²	0.0	床版支間×L×(F-1)×α
	コンクリート主桁下幅	m					①鋼主桁, 横桁, 縦桁等 (再塗装)		920	鋼橋塗装面積
	コンクリート横桁本数	本					①Co. 主桁 (表面塗装, 断面修復, 電気防食)	m ²	0.0	(主桁高×2+下幅)×L×N×α
	コンクリート横桁長 (平均)	m					①Co. 横桁 (〃)	m ²	0.0	(〃)×横桁長×本数×α
	鋼橋塗装面積	m ²	920	○						
	A1橋台高 (フーチング除く)	m	5.00				②A1橋台 (表面塗装, 断面修復, ひびわれ補修, 含浸材塗布, 鋼板接着等)	m ²	-5.0	A1H×(B－0.5×2)×α
	A2橋台高 (〃)	m	5.00					m ²	-5.0	A2H×(B－0.5×2)×α
							③A2橋台 (〃)	m ²		
	P1コンクリート橋脚高 (〃)	m	5.20				④ ₋₁ P1コンクリート橋脚 (〃)	m ²	0.0	P1H×(W+T)×2×α
	P2コンクリート橋脚高 (〃)	m					④ ₋₂ P2コンクリート橋脚 (〃)	m ²	0.0	P2H×(W+T)×2×α
	P3コンクリート橋脚高 (〃)	m					④ ₋₃ P3コンクリート橋脚 (〃)	m ²	0.0	P3H×(W+T)×2×α
	P4コンクリート橋脚高 (〃)	m					④ ₋₄ P4コンクリート橋脚 (〃)	m ²	0.0	P4H×(W+T)×2×α
	P5コンクリート橋脚高 (〃)	m					④ ₋₅ P5コンクリート橋脚 (〃)	m ²	0.0	P5H×(W+T)×2×α
	P6コンクリート橋脚高 (〃)	m					④ ₋₆ P6コンクリート橋脚 (〃)	m ²	0.0	P6H×(W+T)×2×α
	コンクリート橋脚幅 (加重平均)	m					⑤支承 (取替え)	基	20	支承基数
	コンクリート橋脚厚	m					⑥舗装 (打替え)	m ²	0.0	(B－0.5×2)×L
	鋼製橋脚塗装面積	m ²					⑦伸縮装置 (取替え)	m	-1.0	(B－0.5×2)×(径間数+1)
						⑧地覆 (表面塗装, 断面修復, ひびわれ補修等)	m ²	0.0	0.5×6×L×α	
鋼製高欄塗装面積(要塗装のとき"1")	m ²					⑧鋼製高欄 (再塗装ほか補修)	m	0	L×2	
コンクリート高欄高	m					⑧コンクリート高欄 (取替え)	m	0.0	L×2	
支承基数(ベタの場合は面積:m ²)	基・m ²	20				⑧ガードレール防護柵 (取替え)	m	0.0	L×2	
落橋防止装置	基									
						①全面吊り足場	m ²	0.0	B×L	
						②, ③橋台枠組足場 (合計)	掛m ²	-10.0	AnH×(B+0.5×2)	
補修橋長 (諸元の橋長と不一致のとき)	m					④橋脚枠組足場 (合計)	掛m ²	20.8	PxH×(W+T+2.0)×2×構成数	
補修幅員 (諸元の幅員と不一致のとき)	m									
						○詳細調査, 補修実施設計	式	1	あわせて 1式とする	

※ 計算式の記号は L:橋長, B:全幅員, F:床版通り数, N:主桁通り数, AnH:An橋台高, PxH:Px橋脚高, W:橋脚幅, T:橋脚厚とする。
αは補修率 (面補修のとき:1.0, 厚さ補修のとき:厚さ)を示す。

橋りょう番号・名称		架設年(西暦)		橋長 径間数 桁種		事務所名		:		■点検日				
0				鋼製桁		所在地				路線名				
点検項目				変状度 (劣化・損傷度)						緊急 処理の 必要性	健全性 評価	所 見, 補 足 (状況・要素細分) (補修等)	除 外 できる 要因の 抹 消	
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状 要素細分					
参考調査 その1 上部工・ コンクリート 床版評価 #1/1	構成する 床版通り数	構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	無 幅=小, 間隔=粗 幅=小, 間隔=密	幅=小, 間隔=粗 幅=中, 間隔=粗 幅=中, 間隔=密	幅=小, 間隔=密 幅=中, 間隔=粗 幅=中, 間隔=粗 幅=大, 間隔=粗	幅=中, 間隔=密 幅=大, 間隔=粗 幅=大, 間隔=粗 幅=大, 間隔=密	幅=大, 間隔=密 せん断ひびわれ, 幅0.3mm以上の曲げ		無			塩害	
		1 方向 床版ひびわれ 2 方向 (格子状)	P. 91	無 幅=小, 間隔=密	ヘアークラック程度 幅=中, 間隔=密	幅は0.1mm以下が主 幅=中, 間隔=粗 幅=大, 間隔=粗	幅=中, 間隔=密 幅=大, 間隔=粗 幅=大, 間隔=密	幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主					疲労	
		剥離 鉄筋露出	P. 77	無 幅=小, 間隔=密	剥離のみ生じている 幅=中, 間隔=密	鉄筋が露出して いるが、腐食は軽微 鉄筋が露出し、 腐食が著しい	幅=中, 間隔=密 幅=大, 間隔=粗 幅=大, 間隔=密	幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主					7ル骨	
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	無 幅=小, 間隔=密	漏水が生じているが、 錆汁や遊離石灰はない 遊離石灰が生じて いるが、錆汁はない	幅=小, 間隔=密 幅=中, 間隔=粗 幅=中, 間隔=粗 幅=大, 間隔=粗	幅=中, 間隔=密 幅=大, 間隔=粗 幅=大, 間隔=密	幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主					中性	
		変形・欠損	P. 117	無 幅=小, 間隔=密	・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である	・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である	幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主					凍害	
		補修・補強材の損傷	P. 86	無 幅=小, 間隔=密	軽微な損傷が見られる 幅=中, 間隔=密	著しい損傷が見られる 幅=中, 間隔=粗 幅=大, 間隔=粗	幅=中, 間隔=密 幅=大, 間隔=粗 幅=大, 間隔=密	幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主						
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視 困難	無 幅=小, 間隔=密	抜け落ち 変色 劣化	異常な 音, 振動 漏水 滞水	異常な たわみ うき	幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主						
		構成する 床版通り数	構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	無 幅=小, 間隔=粗 幅=小, 間隔=密	幅=小, 間隔=粗 幅=中, 間隔=粗 幅=中, 間隔=密	幅=小, 間隔=密 幅=中, 間隔=粗 幅=中, 間隔=粗 幅=大, 間隔=粗	幅=中, 間隔=密 幅=大, 間隔=粗 幅=大, 間隔=粗 幅=大, 間隔=密	幅=大, 間隔=密 せん断ひびわれ, 幅0.3mm以上の曲げ					無
	1 方向 床版ひびわれ 2 方向 (格子状)		P. 91	無 幅=小, 間隔=密	ヘアークラック程度 幅=中, 間隔=密	幅は0.1mm以下が主 幅=中, 間隔=粗 幅=大, 間隔=粗	幅=中, 間隔=密 幅=大, 間隔=粗 幅=大, 間隔=密	幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主		疲労				
	剥離 鉄筋露出		P. 77	無 幅=小, 間隔=密	剥離のみ生じている 幅=中, 間隔=密	鉄筋が露出して いるが、腐食は軽微 鉄筋が露出し、 腐食が著しい	幅=中, 間隔=密 幅=大, 間隔=粗 幅=大, 間隔=密	幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主		7ル骨				
	漏水 遊離石灰 錆汁		P. 81	無 幅=小, 間隔=密	漏水が生じているが、 錆汁や遊離石灰はない 遊離石灰が生じて いるが、錆汁はない	幅=小, 間隔=密 幅=中, 間隔=粗 幅=中, 間隔=粗 幅=大, 間隔=粗	幅=中, 間隔=密 幅=大, 間隔=粗 幅=大, 間隔=密	幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主		中性				
	変形・欠損		P. 117	無 幅=小, 間隔=密	・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である	・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である	幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主		凍害				
	補修・補強材の損傷		P. 86	無 幅=小, 間隔=密	軽微な損傷が見られる 幅=中, 間隔=密	著しい損傷が見られる 幅=中, 間隔=粗 幅=大, 間隔=粗	幅=中, 間隔=密 幅=大, 間隔=粗 幅=大, 間隔=密	幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主						
	その他著しいもの (損傷度iiiのもの)		目視 困難	無 幅=小, 間隔=密	抜け落ち 変色 劣化	異常な 音, 振動 漏水 滞水	異常な たわみ うき	幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主 幅0.2mm以上が主						

橋りょう番号・名称		架設年(西暦)		橋長 径間数 桁種		事務所名		：		■点検日		
0				鋼製桁		所在地				路線名		
点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急 処理の 必要性	健全性 評価	所 見, 補 足 (状況・要素細分) (補修等)
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状 要素細分			
参考調査 その2a 上部工・鋼主桁と横桁、縦桁等評価	構成する 桁通り数	腐食	P. 42	:1 無	:21 深さ＝小, 面積＝小	:31 深さ＝小, 面積＝大	:41 深さ＝大, 面積＝小	:51 深さ＝大, 面積＝大		無		
		亀裂	P. 47	:1 無	:21 線状でない亀裂 線状でも短く、少数。	:31 線状の亀裂が生じている						
		ゆるみ 脱落	P. 50	:1 無	:21 ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が少ない	:31 ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が多い	※その他著しいもの、 除外する劣化要因は 複数選択可とする。					
		防食機能の劣化	P. 55	:1 無	:21 塗装＞ 防食皮膜が 変色または局所的なうき	:31 塗装＞ 防食皮膜の劣化範囲が 広く点錆が発生						
					:22 塗装＞ 防食皮膜が 部分的剥離し下塗が露出	:33 メッキ＞ 防食皮膜の 劣化範囲が広く点錆が発生						
					:23 メッキ＞ 局所的に防食 皮膜が劣化し点錆が発生	:34 メッキ＞ 防食皮膜の 劣化範囲が広く点錆が発生						
					:24 耐候性＞ 錆は 1～5mm程度で、粗い	:34 耐候性＞ 錆は層状の剥離がある						
		:25 耐候性＞ 錆は 5～25mm程度の鱗状										
		定着部の異常	P. 109	:1 無	:21 定着部のコンクリー トのひびわれから錆汁 定着部に損傷	:31 定着部のコンクリート が剥離 定着部に著しい損傷						
		補修・補強材 の損傷	P. 86	:1 無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる						
変形・欠損	P. 117	:1 無	:21 ・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	:31 ・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である								
遊間の異常	P. 98	:1 無	:21 左右の遊間が 極端に異なる又は遊間が 直角方向にずれている	:31 遊間が異常に広い 継ぎ手の歯が完全に離れ ている又は桁とバット、 桁同士が接触している								

橋りょう番号・名称				架設年(西暦)	橋長 径間数 桁種		事務所名	：						■点検日		
0					鋼製桁		所在地					路線名				
点検項目				変状度（劣化・損傷度）							緊急	健全性 評価	所 見, 補 足 (状況・要素細分) (補修等)			
☐	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状 要素細分	処理の 必要性						
# 1/1		その他著しいもの (損傷度 iii のもの)	目視 困難	:-1 無 :1	破断	変色 劣化	異常な 音, 振動	– 漏水 滞水	異常な たわみ							

橋りょう番号・名称			架設年(西暦)		橋長	径間数	桁種	事務所名	■点検日					
0							鋼製桁	所在地			路線名			
点検項目				変状度 (劣化・損傷度)							緊急 処理の 必要性	健全性 評価	所 見, 補 足 (状況・要素細分) (補修等)	除 外 できる 要因の 抹 消
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状 要素細分					
参考調査 その2b 上部工・Co主桁と横桁、縦桁等評価 #1/1	構成する桁通り数	構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	無 幅=小, 間隔=粗 幅=小, 間隔=密	幅=小, 間隔=粗 幅=中, 間隔=粗 幅=中, 間隔=密	幅=小, 間隔=密 幅=中, 間隔=粗 幅=大, 間隔=粗	幅=中, 間隔=密 幅=大, 間隔=粗 幅=大, 間隔=密	幅=大, 間隔=密 せん断ひびわれ, 幅0.3mm以上の曲げ		無				塩害
		剥離 鉄筋露出	P. 77	無	剥離のみ生じている	鉄筋が露出しているが、腐食は軽微 鉄筋が露出し、腐食が著しい								疲労
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	無	漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はない 遊離石灰が生じているが、錆汁はない	ひびわれから著しい漏水や遊離石灰または泥、錆び汁の混入がある								アル骨
		定着部の異常	P. 109	無	定着部のCoのひびわれから錆汁、定着部に損傷	定着部のコンクリートが剥離 定着部に著しい損傷								中性
		補修・補強材の損傷	P. 86	無	軽微な損傷が見られる	著しい損傷が見られる								凍害
		変形・欠損	P. 117	無	・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である								※その他著しいもの、除外する劣化要因は複数選択可とする。
		遊間の異常	P. 98	無	左右の遊間が極端に異なる又は遊間が直角方向にずれている	遊間が異常に広い 継手の歯の完全な離れ又は桁とバレット、桁同士の接触								
		その他著しいもの(損傷度iiiのもの)	目視困難	無	破断 変色 劣化	異常な音、振動 漏水 滞水	異常な たわみ	うき						
	構成する桁通り数	構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	無 幅=小, 間隔=粗 幅=小, 間隔=密	幅=小, 間隔=粗 幅=中, 間隔=粗 幅=中, 間隔=密	幅=小, 間隔=密 幅=中, 間隔=粗 幅=大, 間隔=粗	幅=中, 間隔=密 幅=大, 間隔=粗 幅=大, 間隔=密	幅=大, 間隔=密 せん断ひびわれ, 幅0.3mm以上の曲げ		無				塩害
		剥離 鉄筋露出	P. 77	無	剥離のみ生じている	鉄筋が露出しているが、腐食は軽微 鉄筋が露出し、腐食が著しい								疲労
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	無	漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はない 遊離石灰が生じているが、錆汁はない	ひびわれから著しい漏水や遊離石灰または泥、錆び汁の混入がある								アル骨
		定着部の異常	P. 109	無	定着部のCoのひびわれから錆汁、定着部に損傷	定着部のコンクリートが剥離 定着部に著しい損傷								中性
		補修・補強材の損傷	P. 86	無	軽微な損傷が見られる	著しい損傷が見られる								凍害
		変形・欠損	P. 117	無	・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である								※その他著しいもの、除外する劣化要因は複数選択可とする。
		遊間の異常	P. 98	無	左右の遊間が極端に異なる又は遊間が直角方向にずれている	遊間が異常に広い 継手の歯の完全な離れ又は桁とバレット、桁同士の接触								
		その他著しいもの(損傷度iiiのもの)	目視困難	無	破断 変色 劣化	異常な音、振動 漏水 滞水	異常な たわみ	うき						

橋りょう番号・名称			架設年(西暦)		橋長 径間数 桁種		事務所名		：		■点検日							
0					鋼製桁		所在地				路線名							
点検項目				変状度 (劣化・損傷度)							緊急 処理の 必要性	健全性 評価	所 見, 補 足 (状況・要素細分) (補修等)		除 外 できる 要因の 抹 消			
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状 要素細分									
参考 調査 その 3 下部 工・ コン クリ ート 橋 台 # 1/1	① A1橋台	構造物への影響大 ひびわれ	P. 60	無 :-1	幅=小, 間隔=粗 :26	幅=小, 間隔=密 :36	幅=中, 間隔=密 :46	幅=大, 間隔=密 :56		無						塩害		
		構造物への影響小		幅=小, 間隔=粗 :11	幅=中, 間隔=粗 :21	幅=中, 間隔=粗 :37	幅=大, 間隔=粗 :47	せん断ひびわれ, :57								幅0.3mm以上の曲げ //	疲労	
				幅=小, 間隔=密 :12	幅=中, 間隔=密 :22	幅=大, 間隔=粗 :31	幅=大, 間隔=密 :41									アル骨		
		剥離 鉄筋露出	P. 77	:1	:21	鉄筋が露出してい るが、腐食は軽微											中性	
		無		剥離のみ生じている	鉄筋が露出し、 腐食が著しい				凍害									
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	:1	漏水が生じているが、 :21 錆汁や遊離石灰はない	ひびわれから :31 著しい漏水や遊離石灰 または泥、錆び汁の混入が ある												
		無		遊離石灰が生じて いるが、錆汁はない														
		定着部の異常	P. 109	:1	定着部のコンクリート :21 のひびわれから錆汁 定着部に損傷	定着部のコンクリート :31 が剥離 定着部に著しい損傷												
	変形・欠損	P. 117	:1	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である													
	補修・補強材 の損傷	P. 86	:1	:21	:31													
	その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視 困難 :-1	:1	破断 変色 劣化	異常な 漏水 音, 振動 滞水	異常な たわみ うき												
	② A2橋台	構造物への影響大 ひびわれ	P. 60	無 :-1	幅=小, 間隔=粗 :26	幅=小, 間隔=密 :36	幅=中, 間隔=密 :46	幅=大, 間隔=密 :56		無							塩害	
		構造物への影響小		幅=小, 間隔=粗 :11	幅=中, 間隔=粗 :21	幅=中, 間隔=粗 :37	幅=大, 間隔=粗 :47	せん断ひびわれ, :57									幅0.3mm以上の曲げ //	疲労
				幅=小, 間隔=密 :12	幅=中, 間隔=密 :22	幅=大, 間隔=粗 :31	幅=大, 間隔=密 :41										アル骨	
		剥離 鉄筋露出	P. 77	:1	:21	鉄筋が露出してい るが、腐食は軽微												中性
		無		剥離のみ生じている	鉄筋が露出し、 腐食が著しい				凍害									
漏水 遊離石灰 錆汁		P. 81	:1	漏水が生じているが、 :21 錆汁や遊離石灰はない	ひびわれから :31 著しい漏水や遊離石灰 または泥、錆び汁の混入が ある													
無			遊離石灰が生じて いるが、錆汁はない															
定着部の異常		P. 109	:1	定着部のコンクリート :21 のひびわれから錆汁 定着部に損傷	定着部のコンクリート :31 が剥離 定着部に著しい損傷													
変形・欠損	P. 117	:1	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である														
補修・補強材 の損傷	P. 86	:1	:21	:31														
その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視 困難 :-1	:1	破断 変色 劣化	異常な 漏水 音, 振動 滞水	異常な たわみ うき													

橋りょう番号・名称				架設年(西暦)	橋長	径間数	桁種	事務所名	:	■点検日					
0						鋼製桁		所在地			路線名				
点検項目				変状度 (劣化・損傷度)							緊急 処理の 必要性	健全性 評価	所 見, 補 足 (状況・要素細分) (補修等)	除 外 できる 要因の 抹 消	
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状 要素細分						
定期 点検 調書 その3 橋台 Co基礎	③ 基 礎 (Co)	構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	無 :-1	幅=小, 間隔=粗 :26 幅=中, 間隔=粗 :21 幅=小, 間隔=密 :12 幅=中, 間隔=密 :22	幅=小, 間隔=密 :36 幅=中, 間隔=粗 :37 幅=中, 間隔=粗 :31 幅=大, 間隔=粗 :47 幅=大, 間隔=密 :41	幅=中, 間隔=密 :46 幅=大, 間隔=粗 :47 幅=大, 間隔=密 :41	幅=大, 間隔=密 :56 せん断ひびわれ, :57 幅0.3mm以上の曲げ //		無				塩害	
		剥離 鉄筋露出	P. 77	無 :1	剥離のみ生じている :21	鉄筋が露出しているが、腐食は軽微 :31 鉄筋が露出し、腐食が著しい :32								疲労	
		変形・欠損	P. 117	無 :1	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である								アル骨	
		沈下 移動 傾斜	P. 120	無 :1		下部工が沈下・移動・傾斜している :31								中性	
		洗掘	P. 121	無 :1	基礎が流水のため洗掘されている :21	基礎が流水のため著しく洗掘されている :31								凍害	
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視困難 :-1												
定期 点検 調書 その3 橋台 鋼基礎 #1/1	③ 基 礎 (鋼製)	腐食	P. 42	:1 無	深さ=小, 面積=小 :21	深さ=小, 面積=大 :31	深さ=大, 面積=小 :41	深さ=大, 面積=大 :51		無					
		亀裂	P. 47	無 :1	線状でない亀裂 :21 線状でも短く、少数。	線状の亀裂が生じている :31									
		防食機能の劣化	P. 55	無 :1	塗装> 防食皮膜が変色または局所的なうき :21 塗装> 防食皮膜が部分的剥離し下塗が露出 :22 メッキ> 局所的に防食皮膜が劣化し点錆が発生 :23 耐候性> 錆は 1~5mm程度で、粗い :24 耐候性> 錆は 5~25mm程度の鱗状 :25	塗装> 防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生 :31 メッキ> 防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生 :33 耐候性> 錆は層状の剥離がある :34									
		沈下 移動 傾斜	P. 120	無 :1		下部工が沈下・移動・傾斜している :31									
		洗掘	P. 121	無 :1	基礎が流水のため洗掘されている :21	基礎が流水のため著しく洗掘されている :31									
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視困難 :-1												

橋りょう番号・名称			架設年(西暦)		橋長	径間数	桁種	事務所名	:	■点検日				
0							鋼製桁	所在地		路線名				
点検項目				変状度(劣化・損傷度)						最大変状要素細分	緊急処理の必要性	健全性評価	所見,補足(状況・要素細分)(補修等)	除外できる要因の抹消
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v						
参考調査 その4a 下部工・コンクリート橋脚評価 #1/1		構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	無 幅=小, 間隔=粗 :11 幅=小, 間隔=密 :12	幅=小, 間隔=粗 :26 幅=中, 間隔=粗 :21 幅=中, 間隔=密 :22	幅=小, 間隔=密 :36 幅=中, 間隔=粗 :37 幅=大, 間隔=粗 :31	幅=中, 間隔=密 :46 幅=大, 間隔=粗 :47 幅=大, 間隔=密 :41	幅=大, 間隔=密 :56 せん断ひびわれ :57 幅0.3mm以上の曲げ〃			無			塩害 疲労 アル骨 中性 凍害
		剥離 鉄筋露出	P. 77	無 幅=小, 間隔=密 :1	剥離のみ生じている 幅=中, 間隔=密 :21	鉄筋が露出しているが、腐食は軽微 鉄筋が露出し、腐食が著しい :32								
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	無 幅=小, 間隔=密 :1	漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はない 遊離石灰が生じているが、錆汁はない :22	ひびわれから著しい漏水や遊離石灰または泥、錆び汁の混入がある :31								
		定着部の異常	P. 109	無 幅=小, 間隔=密 :1	定着部のコンクリートのひびわれから錆汁定着部に損傷 :21	定着部のコンクリートが剥離 定着部に著しい損傷 :31								
		変形・欠損	P. 117	無 幅=小, 間隔=密 :1	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である								
		補修・補強材の損傷	P. 86	無 幅=小, 間隔=密 :1	軽微な損傷が見られる :21	著しい損傷が見られる :31				※その他著しいもの、除外する劣化要因は複数選択可とする。				
		その他著しいもの(損傷度iiiのもの)	目視困難 幅=小, 間隔=密 :1	無 幅=小, 間隔=密 :1	破断 変色 劣化	異常な音, 振動 漏水 滞水	異常なたわみ うき							
		構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	無 幅=小, 間隔=粗 :11 幅=小, 間隔=密 :12	幅=小, 間隔=粗 :26 幅=中, 間隔=粗 :21 幅=中, 間隔=密 :22	幅=小, 間隔=密 :36 幅=中, 間隔=粗 :37 幅=大, 間隔=粗 :31	幅=中, 間隔=密 :46 幅=大, 間隔=粗 :47 幅=大, 間隔=密 :41	幅=大, 間隔=密 :56 せん断ひびわれ :57 幅0.3mm以上の曲げ〃						
		剥離 鉄筋露出	P. 77	無 幅=小, 間隔=密 :1	剥離のみ生じている 幅=中, 間隔=密 :21	鉄筋が露出しているが、腐食は軽微 鉄筋が露出し、腐食が著しい :32								
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	無 幅=小, 間隔=密 :1	漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はない 遊離石灰が生じているが、錆汁はない :22	ひびわれから著しい漏水や遊離石灰または泥、錆び汁の混入がある :31								
		定着部の異常	P. 109	無 幅=小, 間隔=密 :1	定着部のコンクリートのひびわれから錆汁定着部に損傷 :21	定着部のコンクリートが剥離 定着部に著しい損傷 :31								
		変形・欠損	P. 117	無 幅=小, 間隔=密 :1	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である								
		補修・補強材の損傷	P. 86	無 幅=小, 間隔=密 :1	軽微な損傷が見られる :21	著しい損傷が見られる :31								
		その他著しいもの(損傷度iiiのもの)	目視困難 幅=小, 間隔=密 :1	無 幅=小, 間隔=密 :1	破断 変色 劣化	異常な音, 振動 漏水 滞水	異常なたわみ うき							

橋りょう番号・名称			架設年(西暦)		橋長	径間数	桁種	事務所名	点検日				
0							鋼製桁	所在地	路線名				
点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急 処理の 必要性	健全性 評価	所 見, 補 足 (状況・要素細分) (補修等)	
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状 要素細分				
参考調査 その4b 下部工・鋼製橋脚評価 #1/1		腐食	P. 42	:1	:21 深さ＝小, 面積＝小	:31 深さ＝小, 面積＝大	:41 深さ＝大, 面積＝小	:51 深さ＝大, 面積＝大		無			
		亀裂	P. 47	無	:21 線状でない亀裂 線状でも短く、少数。	:31 線状の亀裂が生じている							
		ゆるみ 脱落	P. 50	無	:21 ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が少ない	:31 ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が多い							
		防食機能の劣化	P. 55	無	:21 塗装＞防食皮膜が 変色または局所的なうき 塗装＞防食皮膜が 部分的剥離し下塗が露出 メッキ＞局所的に防食 皮膜が劣化し点錆が発生 耐候性＞ 錆は 1～5mm程度で、粗い 耐候性＞ 錆は 5～25mm程度の鱗状	:31 塗装＞ 防食皮膜の劣化範囲が 広く点錆が発生 メッキ＞防食皮膜の 劣化範囲が広く点錆が発生 耐候性＞ 錆は層状の剥離がある							
		変形・欠損	P. 117	無	:21 ・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	:31 ・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である		※その他著しいもの、 除外する劣化要因は 複数選択可とする。					
	補修・補強材 の損傷	P. 86	無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる								
	その他著しいもの (損傷度 iii のもの)	目視 困難	:1 無	:21 破断 変色 劣化	:31 異常な 漏水 音, 振動 滞水	異常な たわみ							
		腐食	P. 42	:1	:21 深さ＝小, 面積＝小	:31 深さ＝小, 面積＝大	:41 深さ＝大, 面積＝小	:51 深さ＝大, 面積＝大		無			
		亀裂	P. 47	無	:21 線状でない亀裂 線状でも短く、少数。	:31 線状の亀裂が生じている							
		ゆるみ 脱落	P. 50	無	:21 ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が少ない	:31 ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が多い							
		防食機能の劣化	P. 55	無	:21 塗装＞防食皮膜が 変色または局所的なうき 塗装＞防食皮膜が 部分的剥離し下塗が露出 メッキ＞局所的に防食 皮膜が劣化し点錆が発生 耐候性＞ 錆は 1～5mm程度で、粗い 耐候性＞ 錆は 5～25mm程度の鱗状	:31 塗装＞ 防食皮膜の劣化範囲が 広く点錆が発生 メッキ＞防食皮膜の 劣化範囲が広く点錆が発生 耐候性＞ 錆は層状の剥離がある							
変形・欠損		P. 117	無	:21 ・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	:31 ・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である								
補修・補強材 の損傷	P. 86	無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる									
その他著しいもの (損傷度 iii のもの)	目視 困難	:1 無	:21 破断 変色 劣化	:31 異常な 漏水 音, 振動 滞水	異常な たわみ								

橋りょう番号・名称		架設年(西暦)		橋長	径間数	桁種	事務所名	点検日				
0						鋼製桁	所在地	路線名				
点検項目				変状度(劣化・損傷度)					緊急 処理の 必要	健全 性評価	所見,補足 (状況・要素細分 (補修等))	除:外 できる 要因の 推測
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変 状 要素細			
参考調査 その5 支承部評価 #1/2	① 支承 部分を含む 材質	腐食	P. 42	:1	深さ=小, 面積=小 線状でない亀裂 :21 線状でも短く、少数。	深さ=小, 面積=大 :31 線状の亀裂が生じている	:41	:51		無		
		亀裂	P. 47	:1	線状でない亀裂 :21 線状でも短く、少数。	線状の亀裂が生じている						
		ゆるみ 脱落	P. 50	:1	ボルトのゆるみ :21	ボルトのゆるみ :31 脱落の箇所が多い						
		遊間の異常	P. 98	:1	左右の遊間が :21 極端に異なる又は遊間が 直角方向にずれている	遊間が異常に広い :31 継ぎ手の面が完全に離れ ている又は桁とバラハッ ト、桁同士が接触してい る						
		変形・欠損	P. 117	無	局部的に変形、欠 損 :21 著しい機能低下が無い	著しい変形、欠損 :31 著しい機能低下である						
		補修・補強材 の損傷	P. 86	:1	軽微な損傷が見られる	著しい損傷が見られる						
		防食機能の劣化	P. 55	無	塗装> 防食皮膜が 変色または局所的なうき 塗装> 防食皮膜が :22 部分的剥離し下塗が露出 メツキ> 局所的に防 食 :23 皮膜が劣化し点蝕が発生	塗装> 防食皮膜の劣化範囲が 広く点蝕が発生 メツキ> 防食皮膜の 劣化範囲が広く点蝕が 発生 :33 劣化範囲が広く点蝕が 発生 :31 下部工が移動・傾斜						
		沈下・移動・傾斜	P. 120	:1								
		その他著しいもの (損傷度Ⅲのもの)	目視 困難	:1	破断 変色 劣化	異常な音、振動 漏水 滞水	土砂 詰り	又水の 機能障 害				
				無								
参考調査 その5 支承部評価 #2/2	② 落橋防止 装置 (鋼製部)	腐食	P. 42	:1	深さ=小, 面積=小 線状でない亀裂 :21 線状でも短く、少数。	深さ=小, 面積=大 :31 線状の亀裂が生じている	:41	:51		無		
		亀裂	P. 47	:1	線状でない亀裂 :21 線状でも短く、少数。	線状の亀裂が生じている						
		ゆるみ 脱落	P. 50	:1	ボルトのゆるみ :21	ボルトのゆるみ :31 脱落の箇所が多い						
		変形・欠損	P. 117	:1	局部的に変形、欠 損 :21 著しい機能低下が無い	著しい変形、欠損 :31 著しい機能低下である						
		防食機能の劣化	P. 55	無	塗装> 防食皮膜が 変色または局所的なうき 塗装> 防食皮膜が :22 部分的剥離し下塗が露出 メツキ> 局所的に防 食 :23 皮膜が劣化し点蝕が発生	塗装> 防食皮膜の劣化範囲が 広く点蝕が発生 メツキ> 防食皮膜の 劣化範囲が広く点蝕が 発生 :33 劣化範囲が広く点蝕が 発生 :31						
		遊間の異常	P. 98	:1	左右の遊間が :21 極端に異なる又は遊間が 直角方向にずれている	遊間が異常に広い :31 継ぎ手の面が完全に離れ ている又は桁とバラハッ ト、桁同士が接触してい る						
		その他著しいもの (損傷度Ⅲのもの)	目視 困難	:1	破断 変色 劣化	異常な音、振動 漏水 滞水	異常な たわみ	機能 障害				
				無								
				無								
				無								
参考調査 その5 支承部評価 #2/2	③ 落橋防止 装置 (Co部) 寄座拉幅部 変位制限 装置等も 含む	構造物への影響大 ひびわれ	P. 60	幅=小, 間隔=粗 :11 幅=中, 間隔=粗 :21 幅=大, 間隔=粗 :31	幅=小, 間隔=粗 :26 幅=中, 間隔=粗 :27 幅=大, 間隔=粗 :31	幅=小, 間隔=密 :36 幅=中, 間隔=粗 :37 幅=大, 間隔=粗 :31	幅=中, 間隔=密 :46 幅=大, 間隔=粗 :47 幅=大, 間隔=密 :41	幅=大, 間隔=密 :56 せん断ひびわれ :57 幅0.3mm以上の曲げひ びわれ		無		塩害 疲労 アル骨 中性 凍害
		剥離 鉄筋露出	P. 77	:1	剥離のみ生じている	鉄筋が露出し、 腐食が著しい						
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	:1	漏水が生じてい るが、錆汁はない 遊離石灰が生じて いるが、錆汁はない	ひびわれから :31 著しい漏水や遊離石灰 または泥、錆汁の混入 がある						
		遊間の異常	P. 98	:1	左右の遊間が :21 極端に異なる又は遊間が 直角方向にずれている	遊間が異常に広い :31 継ぎ手の面が完全に離れ ている又は桁とバラハッ ト、桁同士が接触してい る						
		変形・欠損	P. 117	無	局部的に変形、欠 損 :21 著しい機能低下が無い	著しい変形、欠損 :31 著しい機能低下である						
		その他著しいもの (損傷度Ⅲのもの)	目視 困難	:1	破断 変色 劣化	異常な音、振動 漏水 滞水	異常な たわみ	うき 土砂 詰り				
				無								
				無								
				無								
				無								

橋りょう番号・名称				架設年(西暦)	橋長	径間数	桁種	事務所名	:	■点検日				
0							鋼製桁	所在地		路線名				
点検項目				変状度（劣化・損傷度）							緊急 処理の 必要性	健全性 評価	所 見, 補 足 (状況・要素細分) (補修等)	除 外 できる 要因の 抹 消
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状 要素細分					
参考 調査	① 舗 装	路面の凹凸	P. 100	無	路面の段差が 2cm未満	路面の段差が 2cm以上				無				
		舗装の異常	P. 102	無		舗装の ひびわれ幅が 5mm以上 過度のたわみが発生								
その 6 路上部 1・舗装、 伸縮装置等評価 # 1/1	② 伸縮装置	遊間の異常	P. 98	無	左右の遊間が 極端に異なる又は遊間が 直角方向にずれている	遊間が異常に広い 継ぎ手の歯が完全に離れて いる又は桁とパレット、桁 同士が接触している				無				
		路面の凹凸	P. 100	無	路面の段差が 2cm未満	路面の段差が 2cm以上								
		止水機能		有		無								
		構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	無	幅=小, 間隔=粗	幅=小, 間隔=密	幅=中, 間隔=密	幅=大, 間隔=密						
				幅=小, 間隔=粗	幅=中, 間隔=粗	幅=中, 間隔=粗	幅=大, 間隔=粗	幅=大, 間隔=密	せん断ひびわれ、 幅0.3mm以上の曲げ					
				幅=小, 間隔=密	幅=中, 間隔=密	幅=大, 間隔=粗	幅=大, 間隔=密							
		腐食	P. 42		深さ=小, 面積=小	深さ=小, 面積=大	深さ=大, 面積=小	深さ=大, 面積=大						
		亀裂	P. 47	無	線状でない亀裂 線状でも短く、少数。	線状の亀裂が生じている								
		変形・欠損	P. 117	無	・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である								
		材質 不明	P. 55	無	塗装> 防食皮膜が 変色または局所的なうき 塗装> 防食皮膜が 部分的剥離し下塗が露出 メッキ> 局所的に防食 皮膜が劣化し点錆が発生	塗装> 防食皮膜の劣化範囲が 広く点錆が発生 メッキ> 防食皮膜の 劣化範囲が広く点錆が発生								
				目視困難	破断 変色 劣化	異常な音、振動	漏水 滞水	土砂 詰り	うき					
	③ 排水桝 排水管	防食機能の劣化	P. 55	無	塗装> 防食皮膜が 変色または局所的なうき 塗装> 防食皮膜が 部分的剥離し下塗が露出 メッキ> 局所的に防食 皮膜が劣化し点錆が発生	塗装> 防食皮膜の劣化範囲が 広く点錆が発生 メッキ> 防食皮膜の 劣化範囲が広く点錆が発生				無				
腐食		P. 42		深さ=小, 面積=小	深さ=小, 面積=大	深さ=大, 面積=小	深さ=大, 面積=大							
変形・欠損		P. 117	無	・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である									
その他著しいもの (損傷度iiiのもの)		目視困難	無	破断 変色 劣化	異常な音、振動	漏水 滞水	土砂 詰り							

橋りょう番号・名称			架設年(西暦)		橋長 径間数 桁種		事務所名		:		■点検日				
0					鋼製桁		所在地				路線名				
点検項目				変状度 (劣化・損傷度)							緊急 処理の 必要性	健全性 評価	所 見, 補 足 (状況・要素細分) (補修等)	除 外 できる 要因の 抹 消	
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状 要素細分						
参考調査 その7 路上部2・地覆, 評価#1/1	① 地 覆 (コンクリート)	構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	無 :1 幅=小, 間隔=粗 :11 幅=小, 間隔=密 :12	幅=小, 間隔=粗 :26 幅=中, 間隔=粗 :21 幅=中, 間隔=密 :22	幅=小, 間隔=密 :36 幅=中, 間隔=粗 :37 幅=大, 間隔=粗 :31	幅=中, 間隔=密 :46 幅=大, 間隔=粗 :47 幅=大, 間隔=密 :41	幅=大, 間隔=密 :56 せん断ひびわれ, :57 幅0.3mm以上の曲げ "		無			塩害 疲労 7ル骨 中性 凍害		
		剥離 鉄筋露出	P. 77	無 :1	剥離のみ生じている :21	鉄筋が露出しているが、腐食は軽微 :31 鉄筋が露出し、腐食が著しい :32									
		変形・欠損	P. 117	無 :1	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である									
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	無 :1	漏水が生じているが、 :21 錆汁や遊離石灰はない 遊離石灰が生じているが、錆汁はない :22	ひびわれから :31 著しい漏水や遊離石灰または泥、錆び汁の混入がある									
		補修・補強材の損傷	P. 86	無 :1	軽微な損傷が見られる :21	著しい損傷が見られる :31									
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視困難 :1	無 :1	破断 変色 劣化	異常な音, 振動 漏水 滞水	異常なたわみ うき								
		① 地 覆 (鋼製)	腐食	P. 42	:1	深さ=小, 面積=小 :21	深さ=小, 面積=大 :31	深さ=大, 面積=小 :41	深さ=大, 面積=大 :51						無
	亀裂		P. 47	無 :1	線状でない亀裂 :21 線状でも短く、少数。	線状の亀裂が生じている :31									
	ゆるみ 脱落		P. 50	無 :1	ボルトのゆるみ・ :21 脱落の箇所が少ない	ボルトのゆるみ・ :31 脱落の箇所が多い									
	変形・欠損		P. 117	無 :1	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である									
	補修・補強材の損傷		P. 86	無 :1	軽微な損傷が見られる :21	著しい損傷が見られる :31									
	防食機能の劣化		P. 55	無 :1	塗装> 防食皮膜が :21 変色または局所的なうき 塗装> 防食皮膜が :22 部分的剥離し下塗が露出 メッキ> 局所的に防食 :23 皮膜が劣化し点錆が発生	塗装> :31 防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生 メッキ> 防食皮膜の :33 劣化範囲が広く点錆が発生									
	その他著しいもの (損傷度iiiのもの)		目視困難 :1	無 :1	破断 変色 劣化	異常な音, 振動 漏水 滞水	異常なたわみ								

橋りょう番号・名称			架設年(西暦)		橋長	径間数	桁種	事務所名	点検日					
0							鋼製桁	所在地	路線名					
点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急 処理の 必要性	健全性 評価	所 見, 補 足 (状況・要素細分) (補修等)	外 除 できる 要因の 抹 消	
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状 要素細分					
参考調査 その7 路上部3・高欄 評価#1/1	② 鋼製高欄 防護柵 (ガードレール)	腐食	P. 42	:1		深さ=小, 面積=小 :21	深さ=小, 面積=大 :31	深さ=大, 面積=小 :41	深さ=大, 面積=大 :51		無			
		亀裂	P. 47	無	:1	線状でない亀裂 :21 線状でも短く、少数。	線状の亀裂が生じている :31							
		ゆるみ 脱落	P. 50	無	:1	ボルトのゆるみ・ :21 脱落の箇所が少ない	ボルトのゆるみ・ :31 脱落の箇所が多い							
		変形・欠損	P. 117	無	:1	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である							
		補修・補強材 の損傷	P. 86	無	:1	軽微な損傷が見られる :21	著しい損傷が見られる :31							
		防食機能の劣化	P. 55	無	:1	塗装> 防食皮膜が :21 変色または局所的なうき	塗装> :31 防食皮膜の劣化範囲が 広く点錆が発生							
					:22	塗装> 防食皮膜が 部分的剥離し下塗が露出								
					:23	メッキ> 局所的に防食 皮膜が劣化し点錆が発生	メッキ> 防食皮膜の :33 劣化範囲が広く点錆が発生							
	その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視 困難	:1 無	:1	破断 変色 劣化	異常な 音、振動	漏水 滞水	異常な たわみ						
	③ Co高欄 (壁式)	構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	無	:1	幅=小, 間隔=粗 :26	幅=小, 間隔=密 :36	幅=中, 間隔=密 :46	幅=大, 間隔=密 :56		無		せん断ひびわれ, :57 幅0.3mm以上の曲げ "	塩害 疲労 アル骨 中性 凍害
				幅=小, 間隔=粗 :11	幅=中, 間隔=粗 :21	幅=中, 間隔=粗 :37	幅=大, 間隔=粗 :47							
				幅=小, 間隔=密 :12	幅=中, 間隔=密 :22	幅=大, 間隔=粗 :31	幅=大, 間隔=密 :41							
		剥離 鉄筋露出	P. 77	無	:1	:21	鉄筋が露出してい るが、腐食は軽微 鉄筋が露出し、 :32 腐食が著しい							
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	無	:1	漏水が生じているが、 :21 錆汁や遊離石灰はない 遊離石灰が生じて :22 いるが、錆汁はない	ひびわれから :31 著しい漏水や遊離石灰 または泥、錆び汁の混入が ある							
		変形・欠損	P. 117	無	:1	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である							
		補修・補強材の損傷	P. 86	無	:1	軽微な損傷が見られる :21	著しい損傷が見られる :31							
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視 困難	:1 無	:1	破断 変色 劣化	異常な 音、振動	漏水 滞水	異常な たわみ うき					

橋りょう番号・名称				架設年(西暦)	橋長 径間数 桁種		事務所名	：		■点検日				
0					鋼製桁		所在地			路線名				
点検項目				変状度（劣化・損傷度）						緊急 処理の 必要性	健全性 評価	所 見, 補 足 (状況・要素細分) (補修等)	除 外 できる 要因の 抹 消	
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状 要素細分					
参考調書	点検施設	ゆるみ 脱落	P. 50	無	ボルトのゆるみ・脱落の箇所が少ない	ボルトのゆるみ・脱落の箇所が多い				無				
		防食機能の劣化	P. 55	無	塗装> 防食皮膜が変色または局所的なうき	塗装> 防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生								
					塗装> 防食皮膜が部分的剥離し下塗が露出	メッキ> 防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生								
					メッキ> 局所的に防食皮膜が劣化し点錆が発生									
		腐食	P. 42	無	深さ=小, 面積=小	深さ=小, 面積=大	深さ=大, 面積=小	深さ=大, 面積=大						
		亀裂	P. 47	無	線状でない亀裂 線状でも短く、少数。	線状の亀裂が生じている								
		変形・欠損	P. 117	無	・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である								
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視困難	無	破断	異常な音, 振動	漏水 滞水	異常なたわみ	土砂詰り					機能障害
その7点検施設, 評価# 1/1														